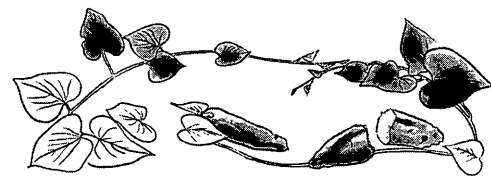


米寿まで

宮坂静生

益子行九句

芋の葉の軍配さばき益子道
道祖土とて小森も木下闇の濃き
よき茂み孟宗竹の粉の真青
庄司邸深き夏爐の切られあり
鬼箆にざくりと薬涼しかり
老鶯を聞き尽したる薬かな



藍甕が並ぶ八月小晦日

藍建ての甕のぶつくさ汗噴くか
花紫蘇が酒席のつまにこんばんは
ほころびし地球繕ふつづれさせ
夏葱の目玉の一つづゝ持てる
競はざり九月寡黙な山脈は
米寿まで窯変かさね蓼の花

